

幼小の円滑な接続のためにできること ～環境をみつめなおす～



令和5年度
京都府「幼児教育と小学校教育の接続カリキュラムコンサルテーション事業」
推進校・連携園
南部小学校 河邊 真由美
東宇治幼稚園 宮本 弘子

令和5年度 京都府「幼児教育と小学校教育の接続カリキュラムコンサルテーション事業」推進校 南部小学校の河邊真由美、連携園 宇治市立東宇治幼稚園の宮本弘子です。ペア研究、「幼小の円滑な接続のためにできること」についての研究報告をさせていただきます。

保幼小連絡会議を利用して授業参観



まず始めに、幼小教員がつながるために行った取り組みです。例年は園長や元担任だけが参加していた保幼小連絡会議ですが、今年度は、小学校の参観ができる貴重な機会ととらえ、3歳児の担任ですが幼小担当教員も参加して、接続期の小学校教育について学びました。

校園長（管理職）も交えて話し合い



窓口となる幼小担当教員だけでなく、校長や園長も交えて幼小接続について共有しました。

幼小中合同研修会 「非認知能力・幼小接続について」



講師
京都教育大学 教育学部 幼児教育科
教授 古賀 松香 氏



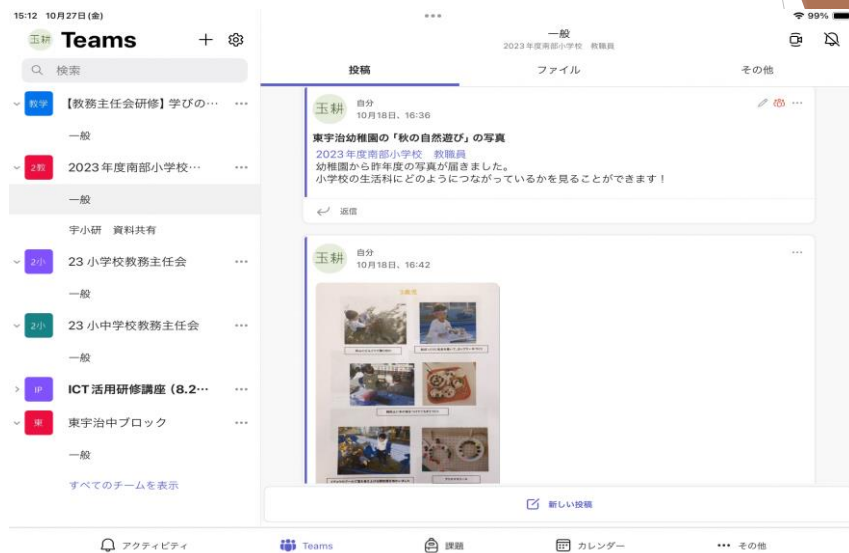
8月には、東宇治中学校区の小学校、中学校の合同研修会に幼稚園も参加し、共通の研究テーマである非認知能力と幼小接続について学びました。

1年生の教室や学習について知る



後ほど出てきますが、幼稚園のうさぎを小学校にお届けする機会を活かし、小学校を訪れた幼稚園の職員が、担任の先生に1年生の教室を案内してもらいました。1年生の教室の環境を見たり、廊下に貼り出されていた授業のドキュメンテーションを見ながら、幼小の違いや共通点について意見を交わしました。

Teamsを活用しての交流



小学校では、幼稚園の様子を回覧する手段として、Teamsを用いました。

幼稚園の教材や環境について 学び合う



5歳児が遊んでいる木製玩具

次に、入学した子どもたちが小学校でも安心して主体的に人やものに関わっていける環境づくりをめざして、幼稚園の環境について学び合い、小学校の環境を見直しました。



ござ



自然物

幼稚園の環境です。

幼稚園の
製作環境





色画用紙

サインペン

空き箱・牛乳パック・カップ・ロール芯





リストンテープ

ペットボトルじょうろ



つながりを意識した環境（小学校）

ござで

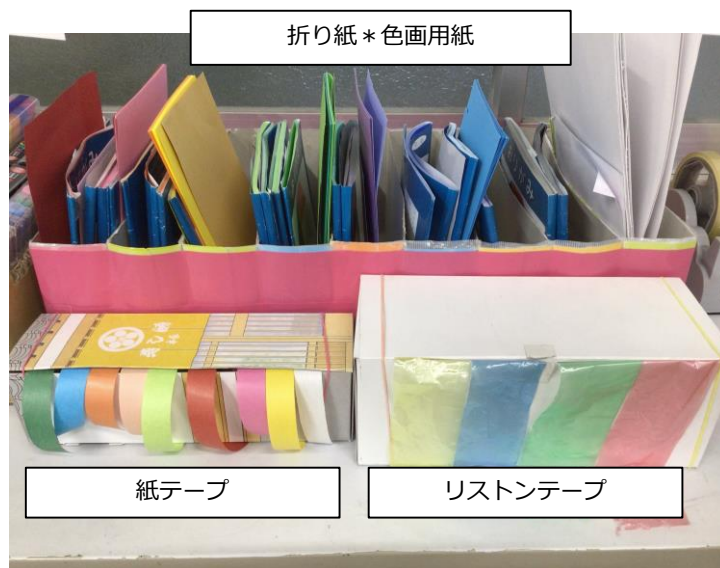
- *一緒に本を読む。
- *寝転がって、くつろぐ。
- *おしゃべり

経験したことのある遊び

- *ひらいたくん
- *ワミー
- *カルタ
- *折り紙

環境を工夫したことの一つに、ござの活用があります。ござの上で遊んだり活動したりすることでより、友達との距離が近くなり、会話が弾んでいました。これまでに、経験したことのある遊びを用意することで、すぐに遊び始めたり、ルールを自分達で考えたりして楽しい時間を共有していました。

製作環境の見直し（小学校）



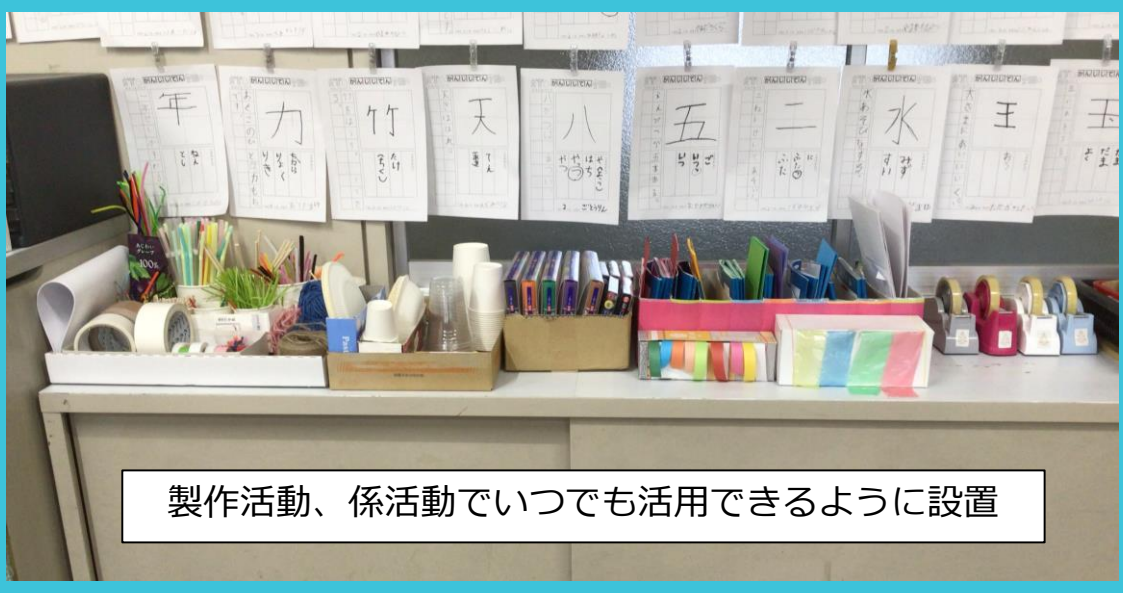
幼稚園での製作環境を見て、小学校でもできそうなことから始めました。



折り紙や色画用紙を入れる容器は、ティッシュのはこを連結して作りました。



牛乳パックや紙コップ等を箱に固定して、モールやストローなどのよく使用するものを分類しました。



これまで、授業で使用するたびに、必要なものを用意し、配膳台やロッカーの上に並べていた材料や道具を分類し、運びやすい形にまとめたことで、授業での活動時間を十分に確保できるようになりました。また、設置場所を決めて、常時使えるようにしたことで、休み時間にさらにやりたい児童や係活動など自ら取り組めるようになりました。



空き箱・ペットボトル
牛乳パック・卵パック
プラカップ・ロール芯など
1・2組の廊下に設置



空き箱やカップ



落ち葉・どんぐり・まつぼっくり・キャップ
1・2組の廊下に設置

松ぼっくりやどんぐりなどは、学年だよりで知らせて、学校への寄付として集めました。

小学校で使用している教材を追加 (幼稚園)



河邊先生との会話を通して、1年生が使用している筆記具を知り、色鉛筆だけだった製作コーナーに追加して、親しめるようにしました。また、三角鉛筆は持ち方を意識しやすいということで、今まで使用していた六角鉛筆を三角鉛筆に変えました。

6月 幼稚園のプールで水慣れ



1年生が幼稚園のプールで「ぞうさんじょうろ(小)を使って活動している写真

ぞうさんじょうろ (小)

水泳学習の初めに、幼稚園のプールを借りて、水慣れをしました。

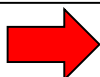
小学校プールは大きくて、深く、怖がる子どもがいますが、幼稚園のプールは小さくて、浅いので、子ども達にとって、怖さが軽減され、水遊びを楽しみながら水慣れすることができました。

幼稚園で使用していた遊具を 学校のプールでも使用



1年生が小学校のプールで「ぞうさんじょうろ(大)」や「バケツ」を使って活動している写真

ぞうさんじょうろ (大)



バケツ (レベルアップ)

幼稚園で使用しているものを小学校でも使用することで、安心して取り組みました。

また、使用している道具をレベルアップさせて取り組みました。

7月に5歳児が小学校のプールを体験する予定でしたが、雨天のため、中止になりました。

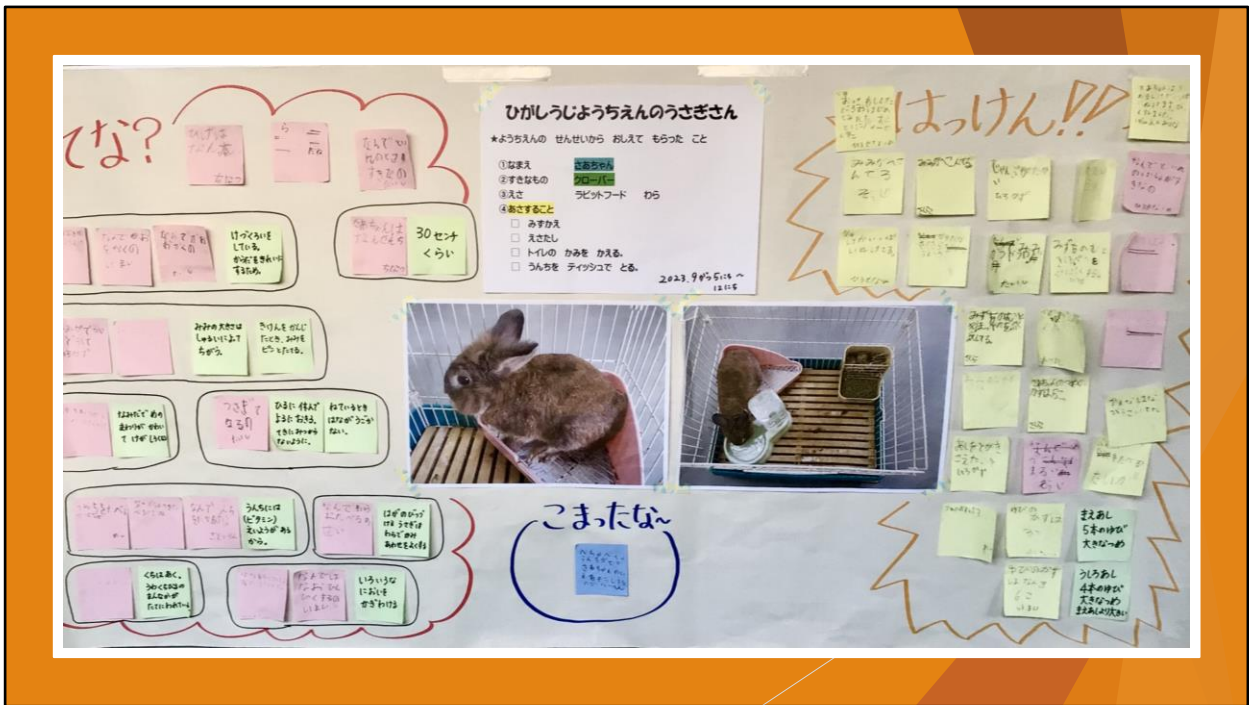
9月 うさぎ交流
生活科「生きもの大すき」

- *国語科「しらせたいな
みせたいな」
- *道徳「がんばれ！
車いすのうさぎぴよんた」



生活科「生きもの大すき」の単元で、園から「うさぎ」をお借りして学習しました。

前もって、園からうさぎの写真を送ってもらい、うさぎの名前が「さあちゃん」であることやさあちゃんの好きなもの、お世話の仕方なども教えてもらっていたので、事前にうさぎについて調べる子どもがいたり、さあちゃんに来ることを心待ちにしたりしている子どもがたくさんいました。



お世話をしたり、観察したりする中で、子ども達の気づきがたくさんあり、気付いた時にすぐにメモできるように付箋を用意しておき、そのメモを模造紙に貼りました。その際、「はっけん」「はてな?」「こまったな」に分類し、付箋も色を変えて貼りました。

うさぎ交流を通して（幼稚園）



- 小学生の気付き
- 興味を深め観察
- 飼育をしたい



小学校の学習で使用していた表をお借りして5歳児に紹介したところ、「そう、さあちゃんの指は5本だよ」などの声があがりました。小学生の気付きから刺激を受けて、うさぎのさあちゃんをより深く観察しようとする姿が見られるようになりました。

また、自分たちもうさぎのさあちゃんの世話をしたいという声上がり、数年間コロナで中断していたさあちゃんの飼育が始まりました。

12月うさぎ交流 (2回目)



子ども達の気づき（9月と比べて）

- 体が大きくなった
- 毛がよく抜ける
- うんちやおしっこの量が減った
- あまり動かない

12月にも1週間お借りしました。2回目ということもあり、「もうできるよ」と子ども達から進んでお世話をはじめていました。また、前回とは違ううさぎの様子に気付く子どももいました。継続して取り組むことで、新たな発見だけでなく、子ども達が自信を持って取り組めたり、子ども達の自主性が育くまれたりすることに気付かされました。3学期もお借りする予定です。

10月
教育講演（小学校の様子を知らせる）



10月、河邊先生に来ていただき

小学校への 不安解消に...

*昔とは違うこと

- 給食は食べきるまで → 食べきれぬ量を調節
- 理科と社会 → 生活科
- 教えてもらう → 自分で探検し言葉で伝える

小学校の一日の流れや学校生活の様子について紹介をしていただきました。

- * 豊かな遊び → 積極的な学び
- * 遊びや生活の中で数える経験
→ 数えてみよう → 算数
- * 雑巾絞りや蛇口をひねる経験
(手首を動かす・ねじる)
→ 手首がなめらかに動く
文字が書きやすくなる

幼児期の遊びが小学校の生活につながっていることを中心に講演していただき、幼児期の遊びの大切さや、自分のことを自分でする大切さについて、保護者に伝えてもらいました。1年生の担任の先生による小学校の話は、保護者に響きやすく

保護者アンケートより

- ▶ 子どもの背中を押してあげられる。
- ▶ 経験をさせてあげる大切さ。
- ▶ 自らやってみることで学ぶ。
- ▶ 具体的な学校での過ごし方。

アンケートでは

- ・ 幼稚園でされている活動が基盤となり小学校につながっているということをわかりやすくお話くださったので、親自身も理解を深められて、子どもの背中を押してあげられる自信がもらえました。
- ・ 昔は、生徒側の受け身の授業が多かった気がしますが、お話を聞いて、子どもたちが自らやってみる、行動することで学ぶという内容があってうれしく思いました。

などの意見が寄せられました。

11月 秋みつけ（東宇治幼稚園にて）



1年生が幼児と一緒に秋みつけをしている写真

11月には、1年生生活科での秋の自然物探し「秋みつけ」を幼稚園で行いました。

(秋の自然物製作)

幼稚園ではどんなものをつかっていましたか？



生活科の自然物製作の授業前に、河邊先生より質問を受け

秋の自然物遊び (3歳児)



カップケーキ



どんぐりで飾り付け



イチョウの
葉で遊ぶ

昨年度の秋の自然物遊びの様子を写真で知らせました。

3歳児です。

(4歳児)

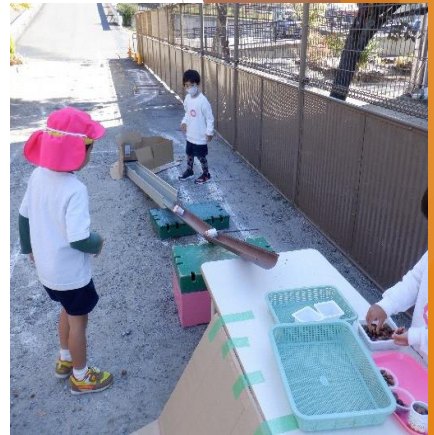
ドングリに絵の具をつけて
模様遊び



ネックレス



イチョウかんむり



先生と一緒に作った
ドングリ転がし

4歳児です。

(5歳児)

イチョウ温泉



音を楽しむ



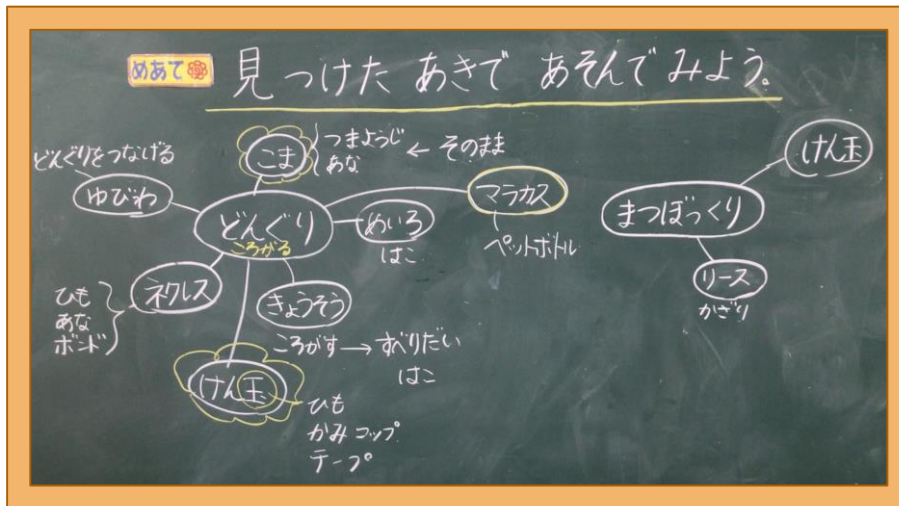
押し葉



ドングリ転がし

5歳児です。

(1年生)



このように、園でいろいろなことを体験している子ども達なので、生活科の時間に、自然物を使った遊びについてたずねると、たくさん経験した遊びが出てくると思っていました。南部小学校は10前後の園から子ども達が集まるので、園によって体験の違いあることを改めて感じました。

けん玉に夢中

- どんぐり、松ぼっくりで
 - ・大きさ
 - ・かず
- 紐の長さ
- 乗せ方や入れ方

写真

どんぐり回しに夢中

- 横回し
- 縦回し
- どんぐりゴマを作って
 - ・爪楊枝の長さ
 - ・模様

写真

「どんぐりごま」を作るまでに、「どんぐり」だけでもいろいろな遊び方が出てきて、1時間夢中になって遊んでいました。生活科の学習内容にはない時間ではありましたが、「遊び込み」は「学びこみ」につながると信じて、たっぷり遊ばせました。

自分のやりたいことに夢中

写真

めいろづくり

写真

ゲームづくり

写真

リースづくり

写真

ケーキづくり

遊びに満足した子どもちは、徐々に自分のやりたいことを見つけ、夢中になって取り組んでいました。



友達と協同で



自分のやりたいことに夢中



自分で満足できるだけ作った子どもの中から、ようやく友達と協同で作り始める姿が見られました。最初からグループを作るわけではなく、やっている姿を見て、一緒にやりたいと思う子が「いっしょにやってもいい？」と声をかけてやっていました。

小学校では、教師がグループを作って、そのグループで相談して作る事が多かったのですが、その際、子ども達で意見が合わなかったり、主導権を握った子が中心となってやったりするため、手が止まってしまう子どもの姿がありました。

今回は 幼稚園を参考にグルーピングしなかったことで、最後まで、自分のやりたいことに夢中になっていた子もいましたが、すべての子どもが手を止めることなく、自主的に取り組み、その際に友達同士の言葉のやり取りもたくさん見られ、自然と「伝え合う力」も育まれていたように感じました。



秋まつり本番に向けて

- ・園児役と1年生役に分かれてやってみる
- ・よかったこと、困ったこと、もっとこうの方がいいことを交流→改善
- ・イメージを持って本番へ（不安の解消）

幼稚園の園児を招待する前にリハーサルをしています。

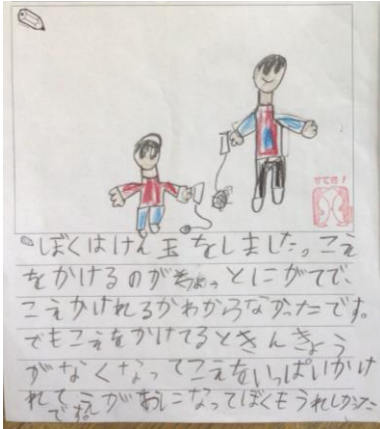
幼小交流（秋まつり：南部小学校）



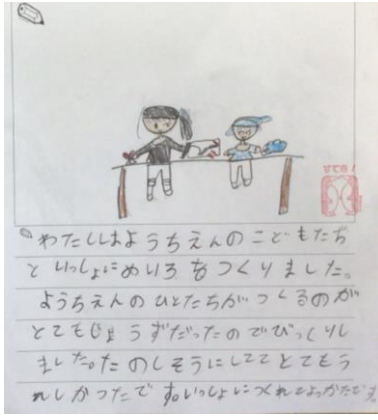
1年生からもらった招待状



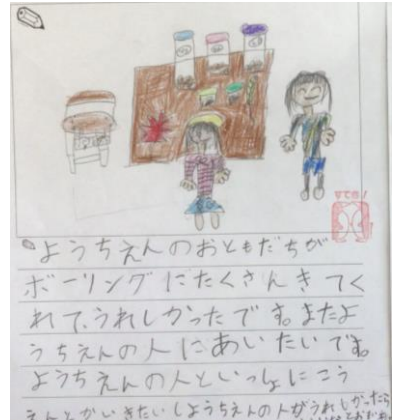
1年生から秋まつりの招待状が届き、期待に胸膨らませながら秋まつりに向かいました。



「ぼくはけん玉をしまじ。こえ
をかけるのがきょうとにかてで
こえかけれるかわからなかなです。
でもこえをかけるときんぎょう
がなくなるとこえをいっばいかけ
れてこえがきょうとになつてぼくもうれしな
です。」



「わたしはようちえんのこどもたち
とあそびにめいじなつくりました。
ようちえんのこどもたちがつくるのが
どこもいっばいだったのでも、しり
ました。たのしもうにすることでもう
れしかったです。あそびにめいじなつくり
ました。」



「ようちえんのおともたちが
ボーリングにたくさんきてく
れてうれしかったです。またよ
うちえんの人にあいいたいです。
ようちえんの人といっばいこ
えんといっばいしたい。ようちえんの人に
あそびにめいじなつくりました。」

秋まつりを 終えて・・・

- 園児の笑顔をから苦手を克服
- 園児の楽しむ姿が自分の喜びに
- 喜びが、またやりたいという気持ちへ

秋まつり後、振り返りを絵と言葉で書きました。その中には、

- ・話しかけるのが苦手だったけれど、幼稚園の子の笑顔を見てたくさん話せるようになった。

- ・幼稚園の子が楽しんでいる姿を見て、自分もうれしくなった。

- ・その喜びが「もっとやりたい」という気持ちへと変わっていったことなどが、書いてありました。

経験を活かして



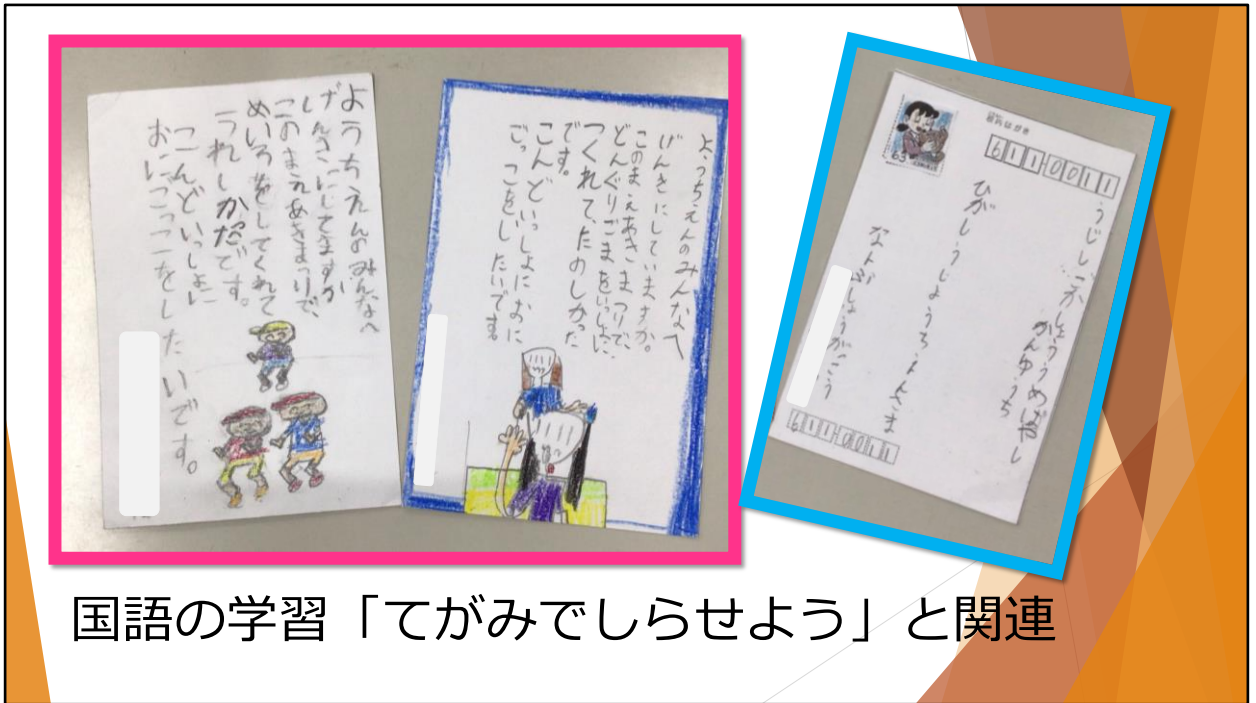
5歳児は、小学校での秋まつりがとても楽しかったよ
うで、幼稚園に帰ってきてからすぐに、秋まつりと同じよ
うにくじ引きや的あてなどの製作を始め、3歳児と4歳児
を招待したお祭りを開いてくれました。



- ・ 楽しませよう
- ・ 褒める
- ・ 呼び込み

例年の5歳児の3、4歳児に対する遊びは、「お店屋さんごっこで売る」、「ダンスなどを披露する」ということが多かったのですが、今回は、「お客さんを楽しませたい」という気持ちが強く、家で折り紙を折ってたくさんの景品をつくってきたり、小学生がしていたように「あたり」のベルを鳴らしたり、楽しんでもらうことを意識した遊びがたくさんありました。また、3歳児や4歳児に、「すごい」「じょうず」といった言葉をかけてほめたり、いたわったりする姿も見られました。

自分たちがしてもらったこと、楽しかった経験など、1年生から受けた影響はとても大きかったようです。



国語の学習「てがみでしらせよう」と関連

国語の学習「てがみでしらせよう」で、園児に、はがきを書きました。楽しかったことを思い出しながら、嬉しそうな表情で文章を書いていました。やはり、実際に体験したことをもとに、読んでもらいたい相手が明確にすることで、文章も書きやすくなったと思います。

幼児教育、小学校教育について学びあう 公開保育



3歳児
ドングリマラカス



4歳児
ドングリ転がし

秋の子どもたちの交流の際、並行して幼小の教員も交流し、学び合いました。

東宇治幼稚園の園内研修会には、今回、小学校の先生にも来ていただき、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を軸にした参観シートに気付いたことを記入しながら参観してもらいました。

研究協議



講師
京都府幼児教育センター
幼児教育アドバイザー 狩野 理恵子 氏



～「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から～

- ・ 教師の援助や環境構成
- ・ 他に考えられる環境や援助の仕方
- ・ 小学校以降の学習や生活へのつながり

参観後、保育の振り返りや研究協議を行い、幼稚園と小学校の違いに気付いたり、幼児教育について理解を深めたりしました。

生活科 公開授業



小中連携の公開授業に幼稚園の先生にも参加してもらい、園研修の際にも行われていた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した視点で参観をしてもらいました。

事後研究会



事後研では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとにして、幼小の教員で感じたことを交流しました。

公開授業 事後研究会

- 材料を見てうきうき（主体的）
- めあての「あきっぽく」が子ども達の間でキーワードになって活動（協同性）（言葉による伝え合い）
- 子ども達の手が止まらない（主体的）
- 楽しませたい→楽しんでもらいたい→幼稚園児を招待したい（主体的）
- 家庭での体験によるお金作り・呼び込み・大当たりのベル（社会生活との関わり）

* 日常生活中で体験していたことがなくなっている。
保育者が意識する必要性（例：お金）

今後の予定

- ▶ 2月 給食交流と昔遊び
- ▶ 3月 給食交流及び1年生生活科の授業に招待
- ▶ 3月6日 南部小学校教員による保育参観

今後の予定です。

給食のない幼稚園児が、初めての給食で戸惑う不安を軽減できるように、小学校での給食体験を予定しています。

3月には、南部小学校の全教員が幼稚園を参観する予定です。

成果

(教員)

- ▶ お互いの教育を知る
- ▶ 幼小のつながりから環境を見直す

(園児)

- ▶ 小学生から刺激を受け、「やってみよう」とする
- ▶ 年下に対する接し方の変化

(児童)

- ▶ 主体的に考え、自己発揮しようとする
- ▶ 人とのかかわりが増えたことによる対話的で深い学び

研究の成果としては、このような機会のおかげで幼小教員が関係を築き、気軽に話したり、情報交換したりすることができました。

子ども同士、先生同士が交流することで、いつも通りだった環境を見直すことができました。

また、取り組みを通して、子どもたちの姿にも変容が見られました。

課題

- ▶ 就学前施設同士の横のつながり
- ▶ 校内、園内で広げ、全教職員が自分事として参画する

学びと育ちの循環・相互理解・深まる実践



架け橋期のカリキュラムの開発へ

今年度は、南部小学校と東宇治幼稚園だけの取り組みになりましたが、就学前施設同士も交流し、お互いを知ることで、よりスムーズな幼小接続につながるのではないかと思います。

また、幼小担当だけのつながりに終わらず、学校、園全体に広げていく方法を模索する必要があると感じました。

このような成果や課題を踏まえ、さらに架け橋期のカリキュラムの開発を進めていきたいと思っています。



ご清聴
ありがとうございました

以上、研究報告を終わります。

ご清聴ありがとうございました。